

座長のまとめ (演題1~5)

仲山 親

(産業医大)

演題1: C-アームを有し、回転角0~400度でECT可能、有効視野は51×37cm 短形よりなる新しいタイプのカメラを紹介した。

演題2: 抗体コーライグビーズ使用により B/F 分離が容易で intraassay, interassay, recovery も良い TSH サンドイッチ法 RIA について述べた。

演題3: 2抗体法による AVP の RIA 系において、抗体価, incubation 時間の影響, 血漿の影響および回収率について述べた。

演題4: 完全自動の concept-4 使用により, IgE, Insulin について試薬および血清を 1/2 量として測定し, 従来の方法と比較した。

演題5: 心筋梗塞 8, 狭心症 7, 正常 3 の 18 例について phase analysis, amplitude image, 左室造影所見と比較し, 症例を供覧した。

6. コロイド肝シンチにて肝抽出の認められなかったアルコール性肝障害の一例

和田 誠	駕海 良彦	一矢 有一
綾部 善治	桑原 康雄	吉田 道夫
林 隆元	松浦 啓一	(九大・放)
平田 秀紀		(同・病理)
小西 恭司		(千鳥橋病院)

コロイド肝シンチにて, 肝への RI 取り込みが認められない症例は reticuloendothelial failure として familial erythrophagocytic lymphohistiocytosis, jejunoileal bypass 術後, マンソン住血吸虫症, アルコール性肝硬変の end stage 等が報告されているが, 本邦での報告はみられなかった。

今回, われわれは 45 歳の男性で ^{99m}Tc -フチン酸による肝シンチを施行したところ, 肝への RI 取り込みがほとんど認められず, RE failure と思われるアルコール性肝障害の一例を経験したので病理所見を含めて報告した。

7. ラット DAB 肝癌の ^{67}Ga -citrate の取り込みについて

森田誠一郎	菊池 茂	駕淵 雅男
西 文明	山根 完二	梅崎 典良
仏坂 芳孝	兼行 由美	深江 俊三
大竹 久		(九大・放)
山下 龍雄	執行 一幸	野口 耕治
		(九大・中放)

3'-Me-DAB ラット肝癌の ^{67}Ga -citrate の取り込みについて, 核医学的, 病理組織学的に検索を行った。動物は DAB 0.07% を混じた飼料を約 12 か月投与し, 肝癌の発生した 4 匹, 肝癌の発生をみなかった 4 匹を対照群とし計 8 匹を使用した。検索はガリウム投与 48 時間後に行った。腫瘍結節部の ^{67}Ga -citrate の摂取比は, 対照群に比して 2~7 倍と全例に上昇を認めた。さらに腫瘍結節部の ^{67}Ga -citrate の分布の状態をオートラジオグラフ法で観察し H-E 染色病理組織標本と対比を行い次のような結果を得た。 ^{67}Ga -citrate の腫瘍結節部における集積は, 腫瘍の大きさに余り関係なく腫瘍細胞の変性, 壊死, 嚢胞形成, 線維化等のみられる腫瘍の中心部には少なく, 腫瘍細胞の変性のみられない周辺部に強く認められた。

8. 唾液腺腫瘍に対する ^{67}Ga シンチグラフィの臨床評価

有地栄一郎	神田 重信	(九大・歯放)
駕海 良彦	一矢 有一	桑原 康雄
和田 誠	綾部 善治	松浦 啓一
		(九大・放)

唾液腺腫瘍における ^{67}Ga シンチの意義を (1) 原発巣の組織型別および大きさ別陽性率, (2) 転移巣の検出能について検討した。対象は唾液腺腫瘍が疑われた 23 例で, そのうちの 8 例は原発巣摘出後の症例である。検査は ^{67}Ga -citrate 3 mCi 静注し, 72 時間後にスキャンした。

その結果, 原発巣の陽性率は, 良性では, 7 例中 3 例 (43%), 悪性では, 8 例中 4 例 (50%) と低く, 良性と悪性の鑑別も困難であった。大きさ別では 3 cm 以下での陽性率は低かった。所属リンパ節転移は 8 例でみられたが, その陽性率は 50% と低かった。以上より, 唾液腺腫瘍に対する ^{67}Ga シンチは, 悪性リンパ腫を除いては行う意義はないと考える。